

サッカーを通して国際交流

U-12前橋市長杯国際交流サッカー大会を9月22日から24日まで、総合運動公園などで開催しました。本市選抜チームなどのほか、韓国とオーストラリアから4チームも参加。子どもたちは真剣勝負の後、互いの健闘をたたえ合い交流を深めていました。

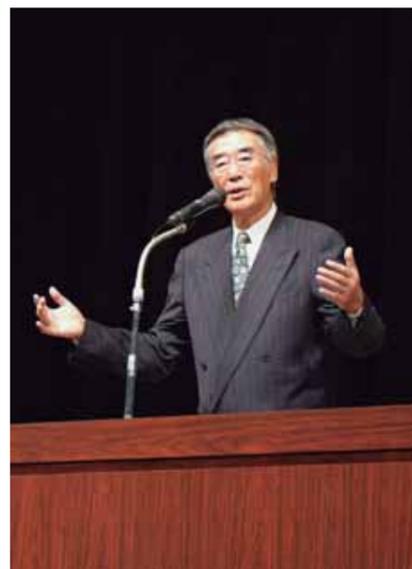


本市の魅力映像で発信

9月26日、前橋フィルム・コミッションが設立（15頁に関連記事）し、総会を行いました。映画などの映像を通し、文化・観光の振興や本市の知名度アップを図ることが狙い。今後、市内で行われる撮影の支援・誘致を進めます。

大勢の市民が人権を学ぶ

人権・同和問題講演会を10月3日、市民文化会館で開催しました。講師は俳優で作家でもある中村敦夫さん。世界を旅して目の当たりにしてきた差別などの話に、参加者は熱心に聞き入っていました。

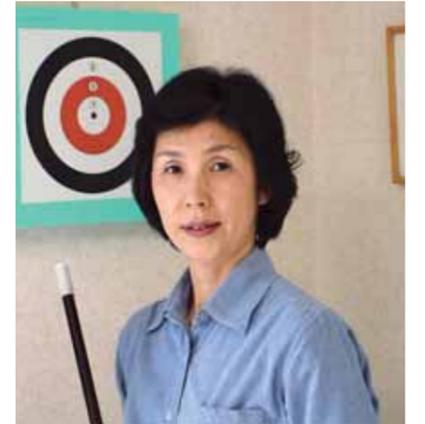


共同募金に協力を呼び掛け

10月1日から赤い羽根共同募金運動が始まりました。4日まで街頭募金を展開。市内の至る所で募金を呼び掛ける声が響きました。初日には中心市街地で高木市長も街頭に。行き交う買い物客などは足を止め、貴重な浄財を寄付していました。



体調・リズム・集中力が勝負を分ける



カルチャー教室連合大会で優勝
浦沢 幸子さん・49歳
小坂子町

教室などでスポーツ吹き矢を習う人が一同に集まる「カルチャー教室連合大会」が東京で行われ、女子6歳の部で優勝を飾った。

「新聞でスポーツ吹き矢を紹介している記事を見たんです。気軽にでき、健康にもいいということで、これならわたしにもできるかなと思い、始めたんですよ」

スポーツ吹き矢は、5歳から10歳まで1歳ごとの部門に分かれ競技を行う。目標的に向かって矢を吹き、得点の多い人が勝ち。1ラウンド、3分以内に5本の矢を吹き、4ラウンド行って、その合計点を競う。

「この大会での優勝は運が良かったです。でも、うれしいですね」始めて1年半。月2回教室に通うほか、仕事や家事の合間を見つけて

家の廊下でトレーニングしている。

「大会出場は3回目。最初の大会は緊張し、足ががくがく震えて集中できませんでした。今は力を抜くよう心掛けています」

自分の体調やリズム、集中力が勝敗のカギを握る。

「腹式呼吸を使って矢を飛ばすので、血液の循環が良くなり、内臓の活性化にもなるんですよ。また、的に命中すると爽快な気分、ストレス解消にもなりますね」

今は1級。初段を目指しながら、11月に行われる県大会に向け、教室の仲間と練習に励んでいる。

「何か一つでも夢中になれることが元気の源です」と、控えめながらも目を輝かせて語った。

若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 夢のための本

敷島小6年

河内 早希さん

本は読んだ方がいい。学校の先生はそう言う。

本は読まずに勉強をしないさい。

お母さんはそう言う。

両方の意見はちがうけど理由は同じ。

将来のため。

どちらを信じる？

私はどちらも信じない。

私はどちらも好まない。

自分の好きなことをする。

★入選 コトバ

荒牧小6年

須田 和美さん

ぶつからないのに
あたらないのに
あなたをきずつけ

つつめないのに
わたせないのに
あなたを喜ばせ

ふれてないのに
ケガさせないのに
あなたを泣かせ

見えないのに
さわれないのに
あなたを笑顔にする

その一言のコトバで
人は身も心も働く
まるで魔法のように